

「令和元年度 鹿屋市ハンセン病問題啓発講演会」開催結果について

- 開催日時：令和元年10月19日(土) 13:00~15:30
- 場所：リナシティかのや3階ホール ※「鹿屋市ふれあい健康福祉まつり」と同時開催
- 来場者数：200人
- アンケート回答数：91人

男性：33人
女性：58人
- 内容 1 講演：「ハンセン病家族訴訟と優生保護法」
星塚敬愛園入所者自治会長 岩川洋一郎氏
- 2 映画上映：「ふたたび swing me again」
- 主なご意見・ご感想

・何十年も辛い思いをして生きてこられた事に対して、政府の施策をもっとしっかりしてもらいたいです。
・岩川会長の講演を聞いて良かった。良かった。映画「ふたたび」心打たれました。
・もっと話を聞きたかった。1時間程度がよいと思う。(30分では短い)
・ハンセン病問題が早く解決してほしいです。
・差別された人生は大変辛かったのだらうと思いました。
・とてもよかった。自分の生活に生かしたい。
・優生保護法については、知らない方にとってはとても難しい内容だったかもしれません。(特に小、中学校も数名いましたので)
・最近まであった事だと知りびっくりした。隔離がなくなっても正しい知識を広めて人権問題をなくすには、時間と地道な努力が必要だと思いますが、がんばってほしいと思います。
・ハンセン病に限らず、様々なことについて差別や偏見の心を持たないように努力したい。
・ハンセン病で大変苦勞されたと思います。今日はとてもいい勉強になりました。
・国、社会が無関心…心が痛いです。教育関係者の一人として、自らが正しく学び子ども達と一緒に活動していきたいです。
・講演会、悲しい現実を話して下さり、重く受け止めました。映画、泣きました。
・このような機会に恵まれて感謝致します。今後、星塚敬愛園にも足を運ばせて頂きたいと思います。よろしくお願い致します。
・講演、映画共に素晴しかったです。基本的人権、もう一度胸に刻む必要ありと思いました。
・表立った差別はなくなったのかもしれないが、家族内では残っているという話、印象的でした。私は鹿屋に住むまでハンセン病のことを知ることがなかった。(家族内でハンセン病に対する差別意識はなかったと思いたい。)
・映画を通して入所者の方々の歩まれてきた人生を少しでも垣間見れたような気がした。これからもハンセン病の方々に寄り添っていきたい。
・岩川さんの辛い体験を惜しみなくお話して下さり、心閉めつけられる思いでした。私たちに今からできることを考えたいと思います。
・映画は理解を深めるのに効果的である。
・初めて来ました。戦争と同じで、高齢になっておられるので、子供達への啓発がとても大切だと思います。命は平等というのを伝えて行ってほしい。
・手話があり活字幕があるのに、映画に字幕がないのは？
そこまでしてほしかった。耳の不自由な者より

- ・差別のない社会を望みます。
- ・鹿屋市民として知っておくべきことだと思った。
- ・教科書や職員の方から歴史について学ぶのもとてもためになりましたが、やっぱり当事者から願いや想いをきくのはとてもよい機会だったと思いました。
- ・ハンセン病問題の歴史を自らの体験を通して語られ問題の深さが理解できました。
- ・平均年齢85才、112名園の方、250名看護師、国の考えはどうなのかと考えました。
- ・風化、無関心、そのようなことにならないようにしたい。表に見えにくい差別にもしっかりと目を向けるべき。
- ・辛い人生を、一生懸命生きてこられましたね。
今後楽しいことがたくさんありますように。
- ・岩川会長が御自身の過去について語られたのが良かった。
- ・医師でない看護長がOPをしていたことにおどろいた。
- ・ハンセン病に対する差別、偏見を受けながら、数十年の長きにわたり入所生活を送っておられる岩川会長の話は身につまされるとともに自分も差別、偏見を抱いた方の一人ではなかったかと反省させられた。
- ・さまざまな苦難に耐えてこられたと思った。家族、人とのつながりを断たれたという意味で。
- ・ハンセン病患者様たちの長い苦悩は私達には解らない事がたくさんあったと思います。
これからも応援していきたいと思います。
- ・「知らないこと」も罪であると自覚するべきですね。難しいことです。
国民の一人一人が大切なことをすべて知ることは至難のわざ。ここで、どうしてもマスコミの役割が大きくなる。マスコミにも自覚と責任が問われるのですよね。
- ・ハンセン病問題の歴史が風化することのないよう、今後とも鹿屋市が中心となり色々な取り組みを行っていただくようお願いします。
- ・字幕の係の人が大変そうでした。あらかじめ打ち合わせて講演内容を資料をパワーポイントで作っていたら良かったのでは？岩川さんのお話は分かりやすく力強いメッセージでした。
- ・毎年実施し、普及啓発を図ることが大事。